

# ウバザメ 日本周辺

## Basking Shark, *Cetorhinus maximus*

### 管理・関係機関

絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

### 生物学的特性

- 寿命: 調査中
- 成熟開始年齢: 雄 6~8 歳あるいは 12~16 歳、雌は調査中
- 繁殖期・繁殖場: 調査中
- 索餌期・索餌場: 調査中
- 食性: プランクトン、小魚
- 捕食者: 調査中

### 最近一年間の動き

世界的には、特に目立った動きは見られなかった。また、最近一年間の日本周辺での出現は、京都府で一例報告されているのみである。

### 利用・用途

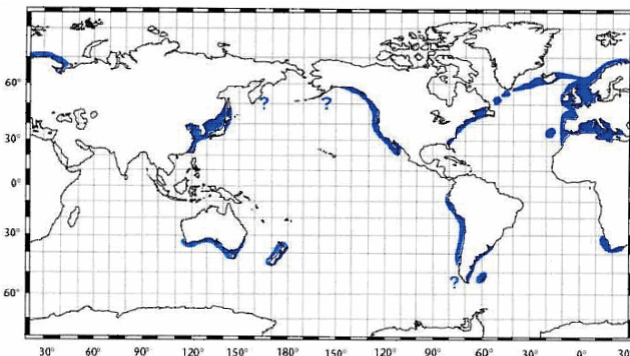
鰭はフカヒレスープの原料、皮は皮革製品、肉は生肉や干し肉として人間の食用、家畜餌用のフィッシュミール、肝油は工業用、化粧品用など。

### 漁業の特徴

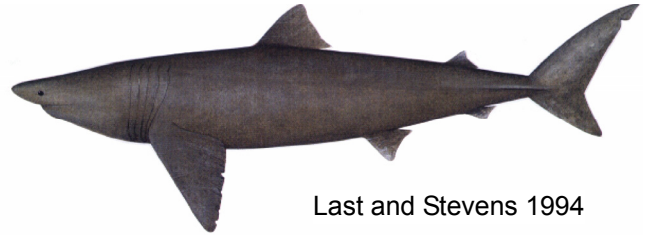
沿岸の定置網などに偶発的に混獲されるが、その後の処理は市場に上げられたり放流されたりとばらばらであり、公式な漁獲統計はない。肝臓に利用価値があり、わが国では 1960 年代後半から 1970 年代にかけて、三重県波切で突きん棒漁業により漁獲されていたが、最近はまったく行われていない。

### 漁獲の動向

1967~1978 年の 12 年間に 1,200 尾以上が水揚げされたので年間平均約 100 尾であり、その内訳はわかっている年で、1975 年約 150 尾、1976 年約 20 尾、1977 年 9 尾、1978 年 6 尾であった(矢野 1978)。またウバザメは東北から北海道沿岸の定置網に春から秋にかけてまれに混獲される。



ウバザメの分布 (Last and Stevens 1994)



Last and Stevens 1994

### 資源状態

三重県波切で 1960 年代後半から 1970 年代前半に年間 100 尾程度の漁(突きん棒)があった後は、主体的な漁業はなく、現在は定置網への偶発的な混獲があるのみである。1960 年から 1970 年代にかけて三重県波切周辺に来遊してきたウバザメを年間およそ 100 頭近く漁獲していたころに比べれば、来遊量は明らかに減少しているであろう。しかし、それ以前にも継続して大量に来遊していたわけではなく、大量の来遊は 30 年周期で起こるとい説もある。1970 年代後半以降は、積極的に漁獲する漁業はなく、資源を定量的に分析できる資料はない。全国の定置網の偶発的混獲の記録等があるのみである。

### 管理方策

英国はウバザメが絶滅の危機にあるとして、2002 年のワシントン条約第 12 回締約国会議で附属書ⅢからⅡへの修正提案を行い、採決の結果 3 分の 2 以上の得票を得て可決された。

我が国に本種を目的とした漁業が存在しないので、積極的な漁獲努力は行われていない。本種を偶発的に混獲する定置網漁業に関して、混獲情報を系統的に収集する仕組みが整っていないので、混獲情報を収集できない。資源評価や保護施策実施のためには、情報収集システムの確立が急務である。

### 資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない。

### 資源管理方策まとめ

ワシントン条約附属書Ⅱへの掲載  
情報収集システムの確立が急務

### ウバザメ(日本周辺)の資源の現況(要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量	調査中
我が国の漁獲量	年間数尾~数十尾程度の混獲?